



# 弁当の日

## おいしい記憶の エピソード募集

### 受賞作品集 2024



主催 株式会社共同通信社

共催 全国小学校家庭科教育研究会 全日本中学校技術・家庭科研究会

特別協賛 キッコーマン株式会社

協賛 日清オイリオグループ株式会社 ワオ株式会社

協力 東洋アルミエコープロダクツ株式会社

後援 文部科学省

# お弁当でつくる、 「おいしい」宝物の記憶。

自分が食べたいもの、誰かに食べてもらいたいものを  
調理して、世界に一つだけのお弁当をつくる。

「おいしくできますように」

そんな子どもたちの挑戦を応援したい。

メニュー選びから楽しんで、

お弁当箱の中の彩りも考えて食材を選んで、

焼いたり、炒めたり、揚げ物にもチャレンジして。

「頑張って作った！」その記憶は、宝物になるから。

おいしさへの挑戦に寄り添いたい。

私たちは、日清オイリオです。



(株)共同通信社では、小中学生を対象に、「弁当の日おいしい記憶のエピソード」として学校で取り組んだ「弁当の日」や、自分で料理をした体験を作文にまとめ、写真や絵と合わせて募集しました。今年度は全国から小学校 587 点、中学校 1890 点、合わせて 2477 点の作品が寄せられました。子どもたちはお弁当や料理を作る楽しさや大変さ、家族への感謝、誰かのために料理をつくる喜びなどを素直に表現してくれました。今年も審査の結果、受賞作品が決定いたしましたので、ご紹介いたします。



## 受賞作品

賞	都道府県	学校名・学年	氏名	題名
文部科学大臣賞	山口県	周南市立秋月中学校 1 年	三井 祐人	弁当の力
共同通信社賞	東京都	町田市立真光寺中学校 2 年	市村 光希	ホームラン弁当
全国小学校家庭科教育研究会賞	山形県	南陽市立宮内小学校 4 年	山岸 永和	お父さんと一緒に料理にちょうせん
全日本中学校技術・家庭科研究会賞	宮城県	気仙沼市立大谷中学校 2 年	高橋 太陽	サンドイッチ
キッコーマン賞 小学生の部	福岡県	福岡市立玉川小学校 2 年	坪根 愛	ハッピーな一日
キッコーマン賞 中学生の部	栃木県	宇都宮市立河内中学校 3 年	鈴木 日和	思いやりとお弁当
日清オイリオ賞	奈良県	奈良市立佐保小学校 6 年	平井 陽希	ぼくだけの安心・安全弁当
お弁当デリ賞	福岡県	福岡市立今宿小学校 2 年	古河 ひまり	おもしろだがしべんとう
賞	都道府県	学校名・学年	氏名	題名
特別賞 小学生の部	東京都	江戸川区立平井西小学校 5 年	山口 桜	祖父母と作る「福島弁当」
	和歌山県	智辯学園和歌山小学校 4 年	畑中 結翔	お刺身の盛り合わせ
	高知県	安芸市立井ノ口小学校 3 年	福留 空駕	ぼくの育てたやさいでおべんとうを作ったよ
	宮崎県	木城町立義務教育学校みどりの杜木城学園 6 年	重永 龍乃慎	料理男子はカッコいい
	沖縄県	石垣市立平真小学校 5 年	大瀨 美緒	ペランダ遠足
特別賞 中学生の部	東京都	足立区立第十三中学校 2 年	斉藤 華奈	お弁当とふせん
	兵庫県	雲雀丘学園中学校 1 年	丸山 まなみ	お弁当と新生活
	兵庫県	関西学院中学部 3 年	田中 綾莉沙	笑顔の夕食
	愛媛県	松山市立余土中学校 1 年	唐木 咲智	新鮮な経験
	愛媛県	松山市立勝山中学校 3 年	室津 奎心	弁当の日 おいしい記憶のエピソード
賞	都道府県	学校名		
学校賞 小学校の部	和歌山県	智辯学園和歌山小学校		
学校賞 中学校の部	神奈川県	横浜市立早渕中学校		

審査員  
(敬称略 50音順)

井上 かなえ	料理ブロガー・料理家
大津山 厚	キッコーマン株式会社 執行役員 コーポレート政策推進担当部長
加園 正子	全国小学校家庭科教育研究会 副会長
工藤 恵	一般社団法人共同通信社 文化部記者
竹下 和男	子どもが作る弁当の日提唱者
矢島 加都美	全日本中学校技術・家庭科研究会 副会長
安武 信吾	ドキュメンタリー映画「弁当の日」監督・「はなちゃんのみそ汁」著者

※ 応募作品はなるべく原文に忠実に、誤字脱字のみを修正しました。

## 👑 文部科学大臣賞 👑



三井 祐人 (周南市立秋月中学校 1年)

### 弁当の力

僕に幼い頃の記憶でとても思い出に残っている弁当がある。それは母の手作り細巻き寿司が入った弁当だ。なぜこの弁当に対して特別な思いがあるのかというと、僕が幼い頃に海外で暮らしていた思い出とつながるからだ。

僕は幼稚園から小学校一年生の終わりまで父の仕事の関係でヨーロッパに住んでいた。引越して最初の頃、僕は英語が話せずクラスメイトとの関係に距離を感じていた。そんなこともあり元気がなかった僕を励ますため、母がある日の弁当に細巻き寿司を入れてくれたのだ。その日のお昼のランチタイムは忘れもしない。弁当のふたを開けた途端、クラスメイトが僕の周りに集まり、

「ジャパニーズスシ！」

と大興奮で話しかけてきたのだ。この出来事をきっかけに、あっという間に僕はみんなの輪にとけこんだ。

久しぶりにこの特別な弁当を食べたいと思い、母に教えてもらいながら作ることにした。

作り始めると、巻き寿司というのは何て大変な料理なのだろうと驚いた。中に入れる具材を一つ一つ下ごしらえしなければいけないし一番難しいのは、具材を真ん中にもってくるように巻くこと。海苔の上にご飯をひろげるのも、指先に米粒がたくさんくっつき大変だった。一気に巻く時はとても緊張し、成功するようにと祈る気持ちで巻いた。最後に湿らせた包丁で巻き寿司を切ると、何本かは海苔がはずれて崩れてしまったが、ほとんどの巻き寿司は上手く切ることができた。

おかず作りは、巻き寿司作りでほとんどの力を使い果たしたので、なるべく簡単なものにしようと考え、ウインナーや卵焼き、ピーマンと塩昆布の炒めもの、唐揚げにしてみた。それでも一つ一つ手間のかかるものだと実感させられた。

ようやく全ての料理が出来上がり、冷ました後に弁当箱につめていく。巻き寿司を詰めただけでとても立派な弁当に見えて満足な気持ちになった。最後に弁当の写真を撮った時本当に頑張ったなど自分を褒めたくなった。

この弁当づくりを通して僕が感じた事は、弁当には人を励ましたり元気にしたりする力があるということだ。弁当作りは大変な労力がかかる。でも弁当を作った後の達成感、母のように誰かのために作る素晴らしさが弁当の魅力だと気づかされた。

将来僕も母のように愛情をこめて誰かのために弁当をつくりたいと思った。

## 👑 共同通信社賞 👑



市村 光希 (町田市立真光寺中学校 2年)

## ホームラン弁当

甘い玉子焼が入っていた時、ホームランを打った。右中間の一番深いところに飛びこむ3ラン。芝生がまばらな球場だったけれど、ボールの白さは目立っていた。

その日以来、僕の弁当箱には、必ず甘い玉子焼が入る。ほんのり舌の上に乗っかってくる甘さは、舌の横を通り、全体をコーティングしていく。残った甘みに重ねて、隣のからあげに手をのばす。甘じょっぱい味が心地いい。アスパラベーコンに行く前に、マカロニサラダと上に乗ったプチトマトで小休止。ここでもう一度、黄色い王様の玉子焼を口に運ぶ。さっきとは違う、溶け出してきそうな白味が口の中にすべりこんで来た。上からご飯をほおぼる。まるで1番バッターから9番バッターまで、バランスのとれた打順のようだ。

でも一度だけ、塩味の玉子焼が入っていたことがある。母が風邪をひいてしまい、父が弁当を作ってくれた。同じ重さの同じ弁当箱。

「母さんが必ず玉子焼は入れろって言うから、特製ダシ巻き玉子。京風だぞ。」

父のあまりにもハツラツとした声に、僕は

「甘い玉子焼が…。」

とつぶやいただけで、何も言えなかった。

予想通り、その日の試合は3タコ。3打数無安打どころか、3三振。玉子焼が甘くなかったからだ。何だよ京風って…。2日目の試合の時は「手伝うよ。」と言い分けをして、僕も作ってみた。計量スプーンでおそろおそろ入れる。一応味見。「ガリッ。」「うえっ。」まずい。これじゃあまた三振だ。心配した母がパジャマのまま横に立った。手際良く玉子を割って、シャカシャカととく。砂糖を目分量でつまみ入れ、牛乳を少し、そして、醤油を少々。甘味が引き立つらしい。僕の作っていた茶色の箱は、色々な彩りを与えられ、お弁当箱に早変わりだ。そして最後に母特製の甘い玉子焼。レタスとウインナーの横に三角のとんがり頭をほこらしげに掲げる。きっと打てる。黄色はラッキーカラーになった。

# 👑 全国小学校家庭科教育研究会賞 👑



山岸 永和 (南陽市立宮内小学校 4年)

## お父さんと一緒に料理にちょうせん

料理を初めて作ったのは、三年生の時です。ぼくは、自主学习で、家の見たことのない調理器具を調べたいと思い、お父さんにおねがいしました。すると、お父さんは、ぼくに電子レンジやIHクッキングヒーターの使い方を教えてくださいました。その時に、ぼくが初めて作った料理は、ケチャップチャーハンです。それから、お父さんと一緒に何回もお昼ごはんを作りました。ぼくがお父さんに、「お昼ごはん一緒に作ろう。」と言いました。すると、お父さんは、「いいよ。」と言ってくださいました。ぼくは、今までにお父さんと一緒に、うどんやホットドック、パスタなどを作りました。

お父さんがぼくに料理を作らせてくれるのは、きっと、ぼくが大人になった時、料理が自分で作れるようになったらうれしいと思ったのだと思います。あとは、ぼくが、目が不自由なので、どうやって作っているかもわからないから、直せつ作り方を教えてあげたいと、お父さんは思ったと思います。

この前、お父さんと一緒に、パスタを作りました。まず、めんのかぶろをあけて、めんを取り出しました。取り出す時に、一本、めんがとれたので、味見をしました。そしたら、とつてもかたかったです。それに、何にも味はしませんでした。塩も味見しました。ものすごくしょっぱかったです。

タイマーを使おうとした時、ボタンの使い方がわかりませんでした。だから、お父さんに、「タイマーの使い方わからないから、教えて。」と言いました。お父さんは、「左のボタンと真ん中のボタンを同時に長おしするとリセットして、右のボタンをおすとストップ、スタートで、左が分で、右がびょうだよ。」と、教えてくださいました。

お父さんが、「ふっとうしたよ。」と、教えてくれて、そばに行ってみると、ポコポコと音がしました。塩とめんを入れて、七分はかりました。めんを入れた時、はみ出していたところがあったので、おくまで入れました。めんのお湯につかっていないとこ

ろをさわって、おくまでおしこみました。ぼくが、なべの上に手を近づけた時、「あったかいなあ。」と思いました。手もぬれたので、じょう発しているんだなと、わかりました。

七分たったので、味見をしました。そしたら、まだかたかったので、さらに三分まちました。味見をもう一度したら、まだかたかったので、また三分まちました。ぼくは、「まだかなあ。早く食べたいなあ。」と思いました。三分たって、「ピピピピ、ピピピピ。」と、タイマーがなりました。味見をしたら、ちょうどいいやわらかさになったので、火を止めました。

お父さんが、ざるに、できたパスタのめんを入れました。ぼくは、お父さんに、「パスタ、あつついから、水で冷やさなくていいの。」と聞きました。すると、お父さんは、「水で冷やさなくても、大丈夫。」と、言っていました。ぼくは、「水で冷やしたほうが、すぐに食べられるのに。」と思いました。お父さんに、「においかいでみろー。」と言われて、においをかいでみました。めんのおいしがしました。ぼくは、パスタを見て「やっとできたあ。」と思いました。

そして、ソースをつけて食べました。すごくおいしいし、ぼくの好きなちっちゃいお肉も入っていて、おいしかったです。

ぼくは、いつもお父さんやお母さんに作ってもらっている料理もおいしいけど、自分で作ってもおいしいなあと思いました。ぼくは、料理は大変だなあと思いました。それは、ずっと立っているのにつかれるし、かたづけや皿あらいもあるし、やけどをしないように気をつけなくてはいけないからです。でも、ぼくは、料理の作り方を知って、どんどん料理を作れるようになりたいと思いました。そして、大人になったら、一人でいる時も、自分で料理を作って食べられるし、お父さんとお母さんに、ぼくが作った料理を食べさせてあげたいと思いました。

\* この作品は点字による作文を書き起こしたものです。

# 👑 全日本中学校技術・家庭科研究会賞 👑



高橋 太陽 (気仙沼市立大谷中学校 2年)

## サンドイッチ

幼い頃から偏食が激しく、単純に味がだめなもの、見た目だけでアウトなもの、食べられないものだらけだった僕は、母から

「舌が敏感なのはすごいことなんだよ。悪いことじゃないんだよ。」

と言われて育った。また、食事は楽しむのが一番大事だという母の方針で、苦手なものを無理に食べさせられたことはなかった。

思い返してみると、冷たいご飯が食べられなかった幼稚園の頃、毎日の弁当は決まってサンドイッチだった。サンドイッチは嬉しかったが、おかずやデザートは、ほとんどが温度、見た目、匂いで食べられず、完食した記憶はない。毎日何なら食べてくれるのかと考え、作り、そして手つかずで戻ってくる弁当箱を、母が毎日どんな気持ちで洗って、そしてまた作ってくれていたのか、その時の僕には想像もできなかった。

偏食はわがまま、しつけがなっていない、調理の工夫が足りないせいと言われ、母が涙を流していたことも、夏休みの課題でこの作文に挑戦しようと思わなければ、一生知らないままだったかもしれない。

「母にサンドイッチを作ろう。」

ふとそう思った。

生野菜も冷たいハンバーグも卵も食べられなかった僕のサンドイッチは、いつもジャムやチョコレートがはさんであつたが、今回は母に喜んでもらえるよう、家の畑で採れた野菜を使ってサンドイッチにしてみた。

「すごい。カフェみたい。」

と、母は予想の十倍喜んでくれた。本当は弁当箱に詰めようとして失敗したのだが、どうせならカフェっぽく盛り付けてみようという方向転換が成功して安心した。

母が教えてくれた通り、食事は楽しむことが一番。でも、残さず食べてもらえたら嬉しい。美味しいと言ってもらえたら嬉しい。残されたら悲しい。これは、誰かのために料理を作る経験をして初めて分かるものだった。

また作って欲しいと言われたので、今度は具材を変えて、弁当箱にも詰めてみよう。僕の好きだった甘いサンドイッチも作りたい。ハンバーグや卵、野菜たっぷりのサンドイッチも、今の僕なら食べられるから、今度は家族みんなの分も作って一緒に食べよう。

## 👑 キックマン賞 👑



坪根 愛 (福岡市立玉川小学校 2年)

### ハッピーな一日

わたしがつくったおべんとうは、ハッピーな一日です。

なぜハッピーかというと、ふたをあけたときに、タマゴやきがハートだったらわくわくするからです。また、じぶんでいっしょうけんめいつくったおべんとうを食べたらハッピーになれるからです。

おにぎりをつくる時、のりをちぎってのせたらサッカーボールみたいでおもしろかったです。

玉子やきを、はじめておかあさんとつくりました。フライパンで玉子をまくとき、ハートの形に切るときがむずかしかったですが、もっとれんしゅうしてじょうずになりたいと思いました。

玉子サラダはじぶんでじょうずにつくれてうれしかったです。

ミニトマトは、まいあさ、たっぷりお水をあげてじぶんでそだてました。小さくてまっかなみができました。すこしすっぱかったけど、はじめてつくったおべんとうに入れてうれしかったです。

おべんとうがぜんぶできたとき、わたしのこころはわくわくハッピーになりました。



## 👑 キックマン賞 👑



鈴木 日和 (宇都宮市立河内中学校 3年)

### 思いやりとお弁当

小学校から中学校まで給食のある栃木県に住んでいる私は、すっかりお弁当を食べる機会が少なくなってしまいました。お弁当を食べるときは部活の大会や運動会など少し特別な日です。お弁当を作ってくれるのは基本的に母で「この日お弁当必要だからお願い。」と頼むと、いつも私が大好きな卵焼きをいれてくれます。ある日完食したお弁当を台所に出したとき、母がある話をしてくれました。

それは私がまだ4歳で幼稚園に通っていた頃の話でした。幼稚園にはおにぎりの日とお弁当の日が交互にありました。私はお弁当の日が特に大好きでその日を楽しみにしていました。あるお弁当の日に痛み上がりだった私は時間内に食べ切ることができず、幼稚園の先生に「無理しないでいいんだよ。残しても大丈夫だよ。」と言われても黙々と食べ続け、完食したそうです。この話を幼稚園の先生から聞いた母は未だに覚えていたようです。

さて、今年の夏休みに学童保育に通うことになった妹は毎日お弁当が必要になりました。

夏休みの期間、家族の中で一番朝に余裕のある私はお弁当づくりに挑戦することにしました。家庭科の授業で自分用のお弁当を作ったことはありましたが、誰かのために作ったことはなかったのでとても緊張していました。

まず、前日にお米をとき炊飯器にセットして、朝いつもより早く起きて台所に立ちました。おかずは卵焼きと夏野菜の肉巻き、大学芋にしました。

無事お弁当が完成し、妹を送り出すことができました。妹が帰ってきて「お姉ちゃん、お弁当美味しかった！」と感想を伝えてくれました。妹の帰りを待っている間、お弁当の味や量は大丈夫だったか不安だったのでとても嬉しく、安心しました。このとき、何故母が何年も前の話を覚えていたのか分かった気がしました。誰かを想って作った料理が相手に届いたと分かった瞬間、本当に嬉しい気持ちで満たされます。お弁当には、栄養だけではなく相手を想う気持ちが入っているんだと実感することができました。

また妹は私が作った卵焼きが母の味に似ていたと言っていて、「和食には家庭の味が出やすい」ということを思い出しました。大好きな母の料理を作れるようになりたいと思い、私が料理を好きになるきっかけにもなりました。

私に色々なことを気づかせてくれた母と妹には感謝の気持ちでいっぱいです。誰かを想う「思いやり」の気持ちを大切にこれからもお弁当を作ろうと思います。

## 👑 日清オイリオ賞 👑



平井 陽希 (奈良市立佐保小学校 6年)

### ぼくだけの安心・安全弁当

ぼくは卵の強い食物アレルギーを持っています。他に果物などにもアレルギーがあります。そんな、ぼくにお母さんが作ってくれるお弁当は毎회가、ほとんどの具材や内容が同じです。

ひじきごはん・小さいウインナー・ミートボール・かぼちゃの煮物・ポテト・ちくわのいそべあげ…周りから見ると「また同じ」と思われているかもしれないけど、これは、お母さんが作ってくれるお弁当の定番で、ぼくにとって心配なく食べられるものばかりがつまっている「安心・安全なお弁当」なのです。

ひじきごはんは、だしがきいていて具材もたくさんでおいしいです。かぼちゃの煮物はやわらかくて口の中でとけていきます。ちくわのいそべあげは青のりが多いと味がしっかりしていて好きです。

今年の夏休み、お母さんと一緒にお弁当作りを体験しました。まず一番に気をつけることは「調理ごとに、おはしや使ったものを洗って進めていくこと」これはアレルギーのものが、まちがって入らないようにお母さんがごはん作りの時にも毎回やっていることだと教えてもらいました。時間をかけて出来あがった時は、とてもうれしかったです。お母さんと一緒に、おいしく完食しました。

お姉ちゃんは高校生で毎日お弁当を持っています。いろいろなものが入っています。その中でも、たまご焼きがハートになっていて、とてもかわいくて美味しそうで「ぼくのお弁当に入れてほしい・食べてみたい」おかずナンバーワンです。

お弁当も給食も、なかなかみんなと同じものを食べられなくて、かなしい気持ちになることもあるのでアレルギーが無くなって、みんなと同じものを食べて「おいしい」を共有できるようになりたいです。でも、それまでは、安心安全ぼくだけの特別なお弁当を楽しみたいと思います。ぼくにとってお母さんが作ってくれるお弁当は「愛情」です。みんなのお弁当も、それぞれの愛情たっぷりなお弁当だと思います。

## 👑 お弁当デリ賞 👑



古河 ひまり (福岡市立今宿小学校 2年)

### おもしろだがしべんとう

今、わたしは学どうでおべんとうを食べています。すきなぐは、ナゲットやミニトマトです。でも、おかしも大好きです。それで、だがしべんとうをつくってみたいなと思いました。

けいかく書をつくっていたのですが、おかしのようなおべんとうというものは、しらべてもぜんぜん見つからず、大へんでした。でも、おかあさんと色々考えて、思いついたときはスッキリしました。

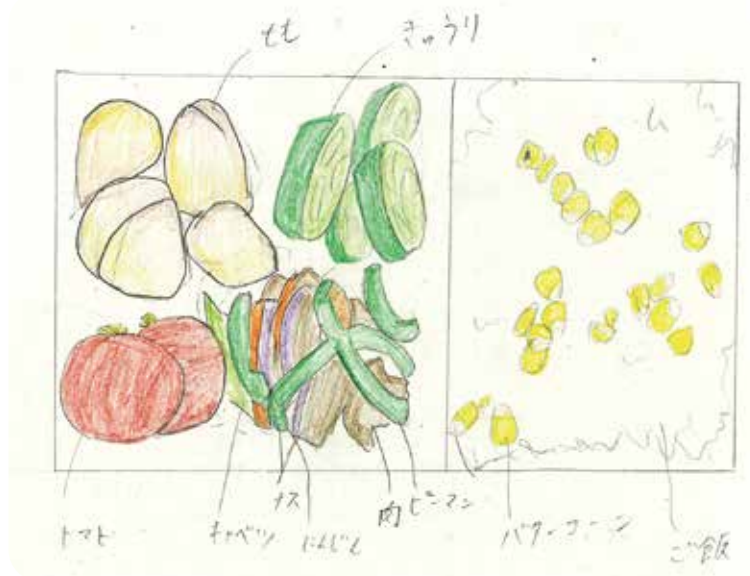
たのしかったのは、ポテトチップスづくりです。と中でしっばいして、まっ黒こげになりました。でも、おんどや時間をかえてみたら、お気に入りの味になりました。トースターの前でうまくできるかまっている時はわくわくわくしました。

あと、かまぼこをおかあさんとつまみ食いしたり、ゆでたものより生のかまぼこがすきということが同じというのがはじめてわかったことも、おもしろかったです。

おすすめのは、ガムです。あたりくじを入れたので、本とうのガムみたいにたのしめます。

だがしべんとうを食べてみて、おいしいものもあったけど、やっぱりすきなものは、いつも食べているナゲットやミニトマトや、きゅうりとソーセージだと思いました。でも、今日みたいなびつくりメニューもあると、わくわくするうれしいから、また、じぶんでほかにも色々なメニューを考えて、思いついたらおかあさんといっしょにつくりたいです。しっばいするかもしれないけど、その時はまたリベンジします。

## 👑 特別賞 👑



山口 桜（江戸川区立平井西小学校 5年）

### 祖父母と作る「福島弁当」

毎年夏休みは、家族と福島県に住む祖父母に会いに行く。八月八日に宮崎県で発生した大きな地震をきっかけに、今年は祖父母の家に行くついでに東日本大震災の跡地を訪ねることになった。福島県の太平洋側は、津波の被害があった。そして、原発事故で広がった放射性物質の影響で福島県産の農作物は、店頭においてもらえなかったことを知った。私はつらい気持ちになった。毎年福島県を訪れていたのに、何も知らなかったのだ。祖父母がいる大好きな福島のために、私は福島県の農作物を使ってお弁当を作ることにした。

祖父はお米や野菜を育てていて、お弁当に入れる野菜は一緒に収穫した。とうもろこし、トマト、きゅうり、ピーマンなど、畑には様々な種類の野菜があった。しかし、私はピーマンが苦手だ。「ピーマンは苦いからいらないよ。」と伝えると、祖父は「このピーマンはとても甘いよ。」と答えた。祖父が作ってくれた野菜だし、少しだけでも入れることにした。メニューと味付けは、祖母にアドバイスをもらった。「手は猫の手にして。」と何度も注意されながら、特にピーマンを小さく切った。野菜を洗ったときの水分がついたままだと、炒めるときに油がはねることも教えてもらった。お弁当箱に少しだけスペースが空いたので、福島県産の桃を入れた。桃は変色するので、お弁当には不向きだと教わったが、大好物の桃ははずせないメニューだ。

ようやくできたお弁当は、「福島県」でいっぱいだった。準備の時間に比べて、食べる時間はあっという間だった。「ピーマン食べられたね。」と祖父に言われるまで、ピーマンを入れたことを忘れるくらい、ピーマンは苦くなかった。福島のお弁当を作ろうと思った理由と、震災のあと地を見て感じたことを祖父母に話した。「福島のことを想ってくれてありがとう。」と言ってくれた。福島役に立てたのかなと思うと、心がとてもあたたかくなった。

## 👑 特別賞 👑



畑中 結翔 (智辯学園和歌山小学校 4年)

### お刺身の盛り合わせ

ぼくは、家族と来客のためにお刺身の盛り合わせをよくつくります。その時の作り方や感想を書こうと思います。

ぼくは、新鮮な魚を買うために、いつも大阪府の田尻漁港へ行き、その日に漁港でとれた新鮮な魚を買うようにしています。今までマグロ、ヒラメ、タイ、イカ、ブリ等、色々な魚を買ってさばいてきました。

ぼくが魚をさばくようになったのは幼稚園の頃です。釣りが好きで釣ってきた魚を家でさばいているうちに、魚をさばくのが好きになりました。いつも父に横について教えてもらっていました。最初は難しかったけれど、だんだん慣れてきて、今では一人でさばけるようになりました。

魚のさばき方は、慣れるととても簡単です。まず魚のうろこを取り、魚の頭を落とします。その時ヒレのトゲにささらないように気をつけます。次におしりの穴から包丁を入れ頭の方に向かって腹の部分の切っけいき、腹わたを取ります。その時、血合いという部分があるのですが、血合いは臭味の原因となるので丁寧に取り除きます。その後、背骨にそって包丁を入れ、魚を三枚おろしにします。それができたら皮をひき、食べやすい大きさに切って盛りつけたら完成です。ぼくにとって盛りつけが一番難しいです。最近お皿ではもの足らず、ついに舟盛りの器を買ってもらいました。大根のツマと大葉も欠かせません。見た目も大切にしています。

ぼくはこの魚をさばくという体験で料理の楽しさを知りました。来客や家族が喜んで食べてくれるのを見るのもうれしいです。先日は誕生日プレゼントに父にマイ包丁をもらいました。また作りたいと思います。

## 👑 特別賞 👑



福留 空駕 (安芸市立井ノ口小学校 3年)

### ぼくの育てたやさいでおべんとうを作ったよ

ぼくは、学校の先生とやさいやくだものをはたけで育てています。そして、そのやさいやくだものをしゅうかくして、先生と料理を作っています。ぼくは、先生と料理するのがすごく楽しくて大好きです。だから、次は家でおべんとうを作ってみようと思いました。

なつ休みの朝、学校に行ってしゅうかくと水やりをして、その日とれたやさいでおべん当を作ることにしました。

おねえちゃんとお母さん、先生といっしょにえだまめ、ししとう、トマト、きゅうり、オクラ、ナスがしゅうかくできたので、お母さんと何を作るか考えて作りました。

おべんとう作りをして楽しかったところはいためるところです。いためるときのパチパチ音がするところも楽しかったです。そしてできたおかずをお父さん、お母さん、お姉ちゃん、ぼくのおべんとうばこに入れて、ぼくは、お母さんとお姉ちゃんと川にあそびにいきました。お父さんは、しごとだったので、おひるに食べれるように家においでいきました。

川で食べる自分で作ったおべんとうは、さいこうにおいしかったです。お母さんとお姉ちゃんもおいしいと言って全部食べてくれてゲキアツでした。お父さんも、しごとからかえってきて、めっちゃおいしかったと言ってくれてうれしかったです。また作りたと思いました。

ぼく、おべんとうやさんでもしようかな。

## 👑 特別賞 👑



**重永 龍乃慎** (木城町立義務教育学校みどりの杜木城学園 6年)

### 料理男子はカッコいい

「一年生になったら、みんな、自分でお弁当作るんだよ。」

保育園の頃は、いつもお母さんが、ぼくの大好きな仮面ライダーのキャラ弁を作ってくれていた。

でも、小学生になったら、自分で作らないといけならしい。

「ぼくにできるだろうか。」

不安に感じていたぼくに、お母さんは、お弁当作りの三つのヒントを教えてくれた。

一つ目は手洗いをしっかりする。

二つ目は赤・黄色・緑を必ず取り入れる。

三つ目は楽しみながら作る。

まず、ぼくは石けんできれいに手を洗った。

エプロンも着けて、準備はバッチリだ。

緑はきゅうりと塩こんぶの和え物。黄色は甘い卵焼き。赤はミニトマト。大好きなから揚げは絶対に外せない。

お弁当箱の中に、バランスよくつめるのは、算数の問題を解くぐらい難しい。

キャラ弁を作っていたお母さんって、本当にすげーなあと思った。

学校のお弁当の日。毎回、自分で作ったお弁当を持って行っていたぼく。周りの様子を見ると何かおかしいと思い始めたのはいつだっただろうか。

耳をすまして、目を見開いて、みんなのお弁当をのぞいて見たけど、1年生から自分でお弁当を作っている人なんて周りにはいなかったように感じた。

「やられた。」お母さんにだまされ続けて、もう少しで6年になる。

「お母さんのうそつき。」と、言いたいところだが、逆に、ぼくは、料理の楽しさを教えてくれたお母さんに感謝している。

何てったって、料理男子はカッコいい。

お母さん、ありがとう。

## 👑 特別賞 👑



大濱 美緒 (石垣市立平真小学校 5年)

### ベランダ遠足

台所で過ごす時間が好きだ。大好物の卵料理やアボカドサラダは一人でもよく作る。どんな風味に仕上がるのかイメージしながら料理すると、頭の中においしい思い出がプクプクと湧いてくる。思い出し笑いをしたり、時にはちょっと切なくなったり、料理をしていると物語の真ん中にいるような気持ちになる。

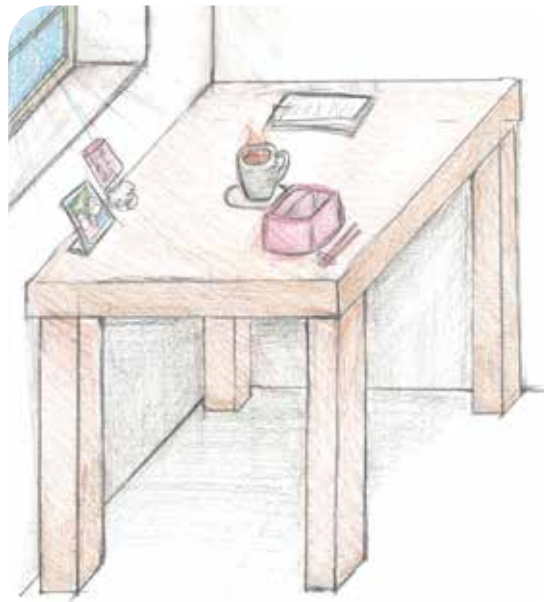
私が小学一年生の時に新型コロナがやって来た。入学式も遠足もなくなり小学生になった実感もうすいまま、二年生に進級した。

二年生の遠足はなんとか決行された。何日も前から、家族に呆れられながらお弁当のメニューを考えた。「何を入れようかな」と、心躍らせながらお弁当の献立作りをするところからが、私にとっての遠足なのだ。当日の朝、私は楽しみ過ぎてとても早起きをした。ちょっと緊張しながら、いつもより慎重に卵焼きを焦がさないように集中して作った。

四年生になった私は、遠足の朝、大号泣して母を困らせていた。数日前から体調不良だった私は熱を出して遠足に行けなくなったからだ。三年生の時も新型コロナの感染拡大で遠足は中止になった。「ようやく今年に行けると思ったのに私はなんてついてないんだ」、心の中はショックと悲しみで埋め尽くされていた。「卵焼き、美緒が作る？」そんな私に母が問いかけた。泣き過ぎて目も腫れて声も枯れていたが、食欲はある。母と並んでお弁当を作るうちに、不思議と気持ちが落ち着いてきた。心なしかいつもより卵焼きもアボカドサラダもおいしそうにできた。二階のベランダに敷物を敷いて、同じく風邪で休んだ兄も一緒に、母と三人でお弁当を囲む。見慣れたベランダの景色がいつもと違って特別な感じがした。風が涼しくて心地いい。「あんなに泣いていたのによく食べるね」、兄に言われて、皆で笑う。私にとって、あの時食べたお弁当は、今でも忘れられない「遠足」の記憶だ。



## 👑 特別賞 👑



齊藤 華奈 (足立区立第十三中学校 2年)

### お弁当とふせん

私の祖父はとても厳しい人でした。まだひらがなも書けない私に対して鼻をかむときはティッシュを四つ折りに、とか、コップが空いている人がいたら声をかける、とか、とても小さなことで私が泣くまで怒る人でした。幼い私からすれば年配は何が怒りの琴線に触れるのか分からなかったし、私は祖父に苦手意識を持っていました。

そんな祖父へのイメージが変わったきっかけは、私が母のお弁当を作ったことでした。母は祖父と同じ会社で働いているため、私は祖父にも弁当を作りました。作ったのは、お弁当には向かない、ナポリタンでした。麺をゆでるのは危ないからと、私は自分の名前が彫刻された子供用の包丁でハムとピーマン、たまねぎ、人参を切りました。「チンしてたべてね」と当時お気に入りだったふせんに書き、弁当箱のフタにはりつけました。

その日、母が帰ってくると、

「おじいちゃん、華奈が作ってくれたナポリタンすごい喜んでたよ。自まんしてたよ。」と教えてくれました。私は祖父が私のお弁当を喜ぶ姿が全く想像できなかったので、母のいつものおふざけの発言かと思いました。しかし、母が見せてきた写真によって、その考えは否定されました。祖父の作業デスクに、私が書いたふせんが飾るような形で貼られていました。私は、どちらかと言うと文字を書くことを楽しむためだけに書いたふせんだったので、とても呆気にとられました。そして、とても嬉しい気持ちになりました。祖父は私のことが好きなんだ、と初めて知れた瞬間でした。今まで不満や恐怖心をいっていた祖父の私への厳しい言動は、すべて不器用ながらに祖父が私のことを愛してくれた結果でした。

それから私は、たまに祖父と母のお弁当を作るようになりました。母は朝が楽になると喜んでくれるし、祖父も喜んでくれていると思います。あの日のお弁当が、私と祖父をつないでくれたと、私は考えています。

## 👑 特別賞 👑



丸山 まなみ (雲雀丘学園中学校 1年)

### お弁当と新生活

桜の舞う四月。私は中学受験を経てこの学校に入学した。夢見ていた学園生活。でも現実にはそう甘くなかった。早い起床時間、待つはくれない電車、ハイレベルの授業。何もかもが新鮮で驚きの連続だった。不安なことも逃げ出したいことも沢山あった。けれど、そんな私を一番身近で支えてくれたのはいつも母だった。母は私が起きるよりずっと前から毎日毎日お弁当を作ってくれていた。でも私はその思いに応えられなかった事がある。

私は小学生の頃、不登校だった。学校に行くことが怖かった。中学生になった瞬間毎日行けるようになる訳ではなかった。どうしても行けない日があった。何度も何度も母の愛情を無下にしてしまった。私は、ただ自信が持てなかった。母に申し訳なさを感じる時があった。それでも、母は私のことを見捨てなかった。懸命に私の悩みに耳を傾け励ましてくれた。毎日笑顔で学校へ送り出してくれた。

そんな母の力あってかこの間は約一年ぶりに一週間丸ごと通うことができた。世間的には普通のことかもしれないが、私からしてはとても大きな一歩だ。

いつもパワフルな私の母だが一度体調を崩してしまったことがある。その日の夜ご飯は私が担当することになった。

「一体何から始めたらいいんだ？」

今まで片手で数えられる程しかキッチンに立ったことのない私は困ってしまった。しばらく考えた後、家庭科の課題になっていた豚肉の生姜焼きを作ることにした。調理実習の時と違い、全ての工程を一人で行わなければならない。野菜炒めと並行して作っていたら肉が数枚黒くこげてしまっていた。すこし焦ったが残りは上手く完成させることができた。弟と父からの評判は思っていた以上に良く、人のために頑張ることは素晴らしいと感じた。

その時、ふと私は思った。あのお弁当、何時から作ってるんだろうか、と。少なくとも私が起きてくる時間にはもう終わっている。改めて後日、私は母に聞いてみた。返ってきた答えに私は愕然とした。母は私のために毎朝五時に起きていた。いつも真夜中まで私の数学の勉強に付き合わせているのに、だ。

その日から母のお弁当はかけがえのないものになった。去年は塾、今年は学校で毎日お世話になっているお弁当。学校に行かなかった日も机の上にぽつんと置いてあるお弁当。何も聞こえない部屋で一人ぼっちで食べるより、クラスメイトと賑やかな教室で食べる方がずっと楽しいしおいしい。その事に私は気付くことができた。

母親の力って、やはり世界で一番偉大だ。優しく、厳しくて、それでも優しく、何よりもかっこいいもの。恥ずかしくて言えないけどいつも本当にありがとう。親孝行できるように頑張りたいと思います。

今日はエビフライか、それともコロッケ？ワクワクしながらお弁当のふたを開ける。

「いただきまーす！」

## 👑 特別賞 👑



田中 綾莉沙 (関西学院中学部 3年)

### 笑顔の夕食

私は母の手料理が大好きです。ハンバーグに唐揚げ、煮魚にキンパ、ダイエット中には彩り豊かなサラダ。何でもリクエストに応じてくれて、どんな有名なレストランよりも、おいしい母の料理は私の日々の原動力です。

夏休み中のある日、母が夏風邪をひき、珍しく体調を崩してしまいました。私は今まで母に甘えてばかりで料理をした事がなく、唯一できるのは、おいしいお米を炊く事だけです。高熱でぐったりしている母に少しでも元気になってもらいたくて、私は考えに考えぬき、一品で野菜も取れ、鶏肉で疲労の改善が期待できるたんぱく質が摂取できる筑前煮を作る事にしました。料理初挑戦、右も左も分かりません。普段お手伝いをしなかった事をとて後悔しましたが前進のみ、気合は充分です。まず、ネットで検索し、必要な食材をメモ。次に冷蔵庫の中をみて使える食材があるか確認してからスーパーに行きました。スーパーは母と一緒によく行くのでどこに何があるかはお手のものです。買い物までは順調。素早く帰宅。検索したキックマンのサイトとティックトックを参考に手順を何度も確認しました。牛蒡と蓮根の皮は剥くのが大変そうで怖い。牛蒡は皮を包丁の背で取り手に塩をつけしっかり洗い一センチ幅の斜め切り蓮根は一センチ幅のいちよう切りに。しいたけは石づきを取り半分に、人参は一口サイズにしました。こんにゃくは洗う時につつつと生きてる魚のようにすべり落ち、まな板の上に寄せスプーンでカットし五分下ゆでしました。鶏肉は手袋をはめてから洗い、肉用のまな板の上に寄せ肉用の包丁で一口大に切りました。キッチンペーパーで水気を取り、酒と醤油の中に十分漬け込みます。いよいよ調理です。こんにゃく→鶏肉→野菜の順で炒めた後、水とほんだし、砂糖、醤油、酒、みりんのレシピ通りの黄金比プラス私は味見の後に母の味を出したくて塩と蜂蜜を足しました。

おいしくできた！母の好物のいちじくを洗い、配膳、準備が整いました。達成感でいっぱい母を起こしに行きました。

夜の八時。食卓についた母は、とても驚いていて、そしてとても喜んでくれました。その時、私と母は目を合わせ大爆笑。もしかして…。ご飯を炊くのを忘れていたのです。写真のご飯は冷凍のものですが、チンをして、いざ、いただきます！母の笑顔。「とってもおいしいよ。ありがとう。お母さん本当に嬉しいよ。」とってくれました。大成功でした。

## 👑 特別賞 👑



唐木 咲智 (松山市立余土中学校 1年)

### 新鮮な経験

新鮮な大きな魚をさばくことは、私の人生にとって、新鮮な経験であった。私はこの春海のない長野県から愛媛県に引っ越した。魚をまじまじと見たことがなかったのである。

春休みは、父が海釣りに連れていってくれて、キスやメバルを釣った。家でインターネットを見ながら、見様見真似でさばいてみた。キスを一尾開くのに三十分くらいかかった。でも、初めての経験だったが、難しいとは思わなかった。

母と行く愛媛の市場の魚売り場は、鯛やアジなど地元の魚が並んでいて驚いた。どんな料理にチャレンジしようか、いつもわくわくした。

夏休み、キャンプへ行った。宇和島の道の駅で、体長三十センチほどのカツオを見つけた。肉厚で、触るとソフトボールのような弾力があった。トレイを持ち上げると、ペットボトル二本分くらいの重みがあった。晩ご飯のメインはカツオに決定。

キャンプ用の簡単なテーブルの上でさばいた。初めにゼイゴを取り、包丁の背でうろこを取った。カツオのうろこは硬くて分厚くてえらのところまでびっしりとついていて、裏表全部取るのに苦戦した。

それから頭を切り落とした。手のひらくらいの大きさのある頭は、首の骨も硬く太いので、体重をかけないと切り落とせなかった。

包丁のあごで腹と背に切り込みを入れるのだが、もによもによと弾力があり、皮が硬かったので苦戦した。アジとは比べ物にならないほどたくさん臓物がびっしりと詰まっていた。

あとは前にアジフライを作ったときと同じように、3枚おろしにした。

事前にインターネットで買っておいた藁に火をつけ、皮目から炙った。藁は全然足りなくて、あっというまに全部燃えつきてしまった。カツオのたたきは、外はこんがり、中が生なのが、今まで不思議だったけど、こうやって作るんだと分かった。

道の駅で買ったポン酢をかけて食べたら、藁の香りが高く、甘酸っぱさがはんごうで炊いたご飯によく合って、おいしかった。苦労した甲斐があった。

実は、長野県から引っ越ししてきて、友達や飯田焼肉が恋しくてずっとホームシックになっていた。でも、カツオをさばけるようになった今では、ここが私のホームと言えるようになってきた気がする。

## 👑 特別賞 👑



室津 奎心 (松山市立勝山中学校 3年)

### 弁当の日 おいしい記憶のエピソード

遠足や運動会、行事ごとに母が作ってくれるお弁当はいつもキャラ弁でした。僕が言うのも変ですが、完成度は高かったと思います。キャラクターはリクエストしたものだったり、お楽しみだったり、時には友達のリクエストで作ってられることもありました。ひっくり返さないように慎重に運んでいたことを思い出します。お昼はみんなが僕の弁当をみてわいわいと楽しく食べる時間が大好きでした。料理は栄養のあるものをバランスよくおいしくいただくのはもちろんですが、人によるこんでもらう料理の楽しさに気付いてからは作ることも楽しくなりました。小学校の6年間は特別支援学級で過ごし、そこではよくおやつやパンをつくりました。時にはプロの先生に教えていただいたり、僕たちがお店を開いて、保護者や先生たちに来てもらうときもありました。趣味のキャンプでは焚き火を使ったキャンプ飯が楽しくて、僕は朝ごはんを担当します。ただ卵を焼いただけでも外で食べるごはんはおいしくてそれをよこんで食べてもらえるのはとてもうれしいです。そして中学生に進路について考えているうちに「食」についてもっと学びたいという気持ちになりました。この夏休みには自分が希望している学校のオープンキャンパスに参加をして来ました。そこでは先輩たちに教わりながらクレープを作ったのですが、緊張してクリームが上手に絞れなかったり、慌ててしまって包丁の使い方も難しくて大変だったけど、盛り付けの仕方など短い間で多くを知ることが出来ました。この先進学したら基礎をしっかりと学び、まずは調理師免許を取るのが目標です。将来のことはまだ決めていませんが、今興味のある防災食や非常時に役立つレシピやおいしい保存食を自分で作ってみたいです。そして、母が作ってくれたキャラ弁のように楽しくて人に喜んでもらえるおいしい料理の作れる料理人になりたいと思っています。

小 学 校



都道府県 学校名

北海道	美幌町立美幌小学校
青森県	十和田市立北園小学校
青森県	十和田市立法奥小学校
秋田県	秋田市立牛島小学校
山形県	南陽市立宮内小学校
福島県	会津若松市立謹教小学校
福島県	会津若松町立荒海小学校
福島県	郡山市立東芳小学校
福島県	桜の聖母学院小学校
栃木県	宇都宮市立横川中央小学校
群馬県	フェリーチェ玉村国際小学校
千葉県	我孫子市立湖北台東小学校
千葉県	船橋市立法典東小学校
千葉県	野田市立みずき小学校
東京都	江戸川区立平井西小学校
東京都	北区立田端小学校
東京都	東京学芸大学附属竹早小学校
岐阜県	高山市立東小学校
長野県	安曇野市立穂高西小学校
長野県	安曇野市立穂高南小学校
長野県	伊那市立伊那北小学校
長野県	上田市立清明小学校
長野県	松本市立開智小学校
京都府	宇治市立小倉小学校
京都府	京都市立梅小路小学校
京都府	ノートルダム学院小学校
奈良県	奈良市立佐保小学校
奈良県	奈良市立登美ヶ丘小学校
和歌山県	紀の川市立中貴志小学校
和歌山県	串本町立潮岬小学校
和歌山県	智辯学園和歌山小学校
和歌山県	和歌山市立新南小学校
和歌山県	和歌山市立高松小学校
和歌山県	和歌山市立大新小学校
和歌山県	和歌山市立中之島小学校
和歌山県	和歌山市立広瀬小学校
和歌山県	和歌山市立吹上小学校
和歌山県	和歌山市立伏虎義務教育学校

和歌山県	和歌山市立三田小学校
和歌山県	和歌山市立和佐小学校
和歌山県	和歌山大学教育学部附属小学校
岡山県	岡山市立浮田小学校
愛媛県	愛媛大学教育学部附属小学校
香川県	綾川町立滝宮小学校
徳島県	徳島市渋野小学校
高知県	安芸市立井ノ口小学校
福岡県	宇美町立宇美東小学校
福岡県	春日市立春日野小学校
福岡県	筑紫野市立二日市北小学校
福岡県	福岡市立今宿小学校
福岡県	福岡市立玉川小学校
福岡県	福岡市立長住小学校
福岡県	福岡市立能古小学校
福岡県	福岡市立若宮小学校
佐賀県	嬉野市立嬉野小学校
長崎県	波佐見町立南小学校
熊本県	錦町立西小学校
熊本県	水俣市立水東小学校
大分県	大分市立城南小学校
宮崎県	木城町立義務教育学校みどりの杜木城学園
鹿児島県	与論町立与論小学校
沖縄県	石垣市立平真小学校

千葉県	野田市立北部中学校
千葉県	野田市立南部中学校
千葉県	四街道市立旭中学校
東京都	足立区立第十三中学校
東京都	跡見学園中学校
東京都	かえつ有明中学校
東京都	晃華学園中学校
東京都	江東区立南砂中学校
東京都	香蘭女学校中等科
東京都	町田市立真光寺中学校
神奈川県	横浜市立早渕中学校
愛知県	一宮市立尾西第一中学校
大阪府	関西創価中学校
兵庫県	関西学院中学校
兵庫県	雲雀丘学園中学校
滋賀県	大津市立粟津中学校
和歌山県	御坊市立名田中学校
和歌山県	和歌山県立古佐田丘中学校
和歌山県	和歌山大学教育学部附属中学校
和歌山県	和歌山市立西浜中学校
岡山県	倉敷市立真備東中学校
岡山県	総社市立総社西中学校
鳥取県	鳥取市立西中学校
島根県	大田市立大田西中学校
山口県	周南市立秋月中学校
愛媛県	宇和島市立三間中学校
愛媛県	西条市立西条南中学校
愛媛県	松山市立勝山中学校
愛媛県	松山市立余土中学校
福岡県	福岡県立門司学園中学校
福岡県	福岡市立柏原中学校
福岡県	福岡市立春日西中学校
福岡県	明光学園中学校
長崎県	諫早市立北諫早中学校
長崎県	長崎市立深堀中学校
熊本県	芦北町立佐敷中学校
宮崎県	宮崎学園中学校
宮崎県	宮崎市立生目中学校
宮崎県	宮崎市立佐土原中学校
宮崎県	宮崎市立住吉中学校
沖縄県	石垣市立石垣第二中学校

中 学 校



都道府県 学校名

青森県	七戸町立天間林中学校
秋田県	鹿角市立花輪中学校
宮城県	気仙沼市立大谷中学校
福島県	福島大学附属中学校
栃木県	宇都宮市立河内中学校
栃木県	宇都宮市立晃陽中学校
栃木県	栃木市立東陽中学校
群馬県	富岡市立南中学校
埼玉県	さいたま市立与野西中学校
埼玉県	滑川町立滑川中学校
千葉県	浦安市立日の出中学校
千葉県	流山市立東部中学校

弁当・仕出しの宅配デリバリーサイト

# お弁当デッ!

## 小学生の部

# 学校賞



## 智辯学園和歌山小学校 (校長 長峯 宏明)

学校賞をいただき、誠にうれしく心から感謝申し上げます。本校では、開校以来、「愛情弁当」ということで、各家庭で作っていただくお弁当を毎日持ってきて、昼食時に食べています。昨年4月から、毎週3回の給食（選択制）を導入しましたが、約半数の児童は毎日お弁当を持っています。

食事の際には、毎回クラス全員で食事作法を唱え、食事についての感謝の気持ちを表します。「一滴の水にも天地の恵みがこもっております。一粒の米にも万人の力が加わっております。感謝の心でいただきましょう」と唱えてから、「いただきます」と言って、食事をします。

児童にとって、お弁当は、毎朝早く起きて作ってくれていることへの感謝につながり、毎日が「おいしい日」となっているようです。

家庭で作っていただいたお弁当をきちんと食べ、家に弁当箱を持って帰って、「おいしかったよ」と感謝の気持ちを伝えることが大切だと考えています。

## 中学生の部

# 学校賞



## 横浜市立早渕中学校 (教諭 福田 ひかる)

中学2年生の夏休みの課題としてこの作文に取り組みました。

本校では中学2年生に夏休みの課題として、「家庭科で献立を考えお弁当を作る」というものが例年出されています。そこで国語科としてもその経験を生かして、思いを表現できる課題をと思い、行いました。

ほら、  
せかい一がいるよ。  
おいしい記憶の中に。



おとうとはずるいです。  
おかあさんに  
だっこしてもらえるからです。  
わたしだって  
だっこしてもらいたいのに。  
そんなときは、  
りょうりの手つだいをします。  
おかあさんを一人じめ  
できるからです。  
はじめておしえてもらったのは  
たまごやきでした。



ある日おかあさんがしんどくて  
ねていたので、たまごやきを  
つくってあげました。  
うまくできなかったけど、  
おかあさんは  
ぎゅとして言いました。

「せかい一おいしかったよ」

あなたとのおいしい記憶は、  
せかいでいちばんの物語。

第15回「あなたのおいしい記憶」をおしえてください。  
コンテスト キックマン賞  
西浦一華さんの作品をもとに制作しました。



「せかい一」のごはんを、  
つくる、味わう、おいしい記憶の宝箱はこちら。

おいしい記憶をつくりたい。

検索



おいしい記憶をつくりたい。キックマン。

kikkoman   
おいしい記憶をつくりたい。